

福祉サービス第三者評価結果報告書（平成 28 年度）

平成 29 年 3 月 29 日

社会福祉法人 京都市社会福祉協議会
京都市白川児童館 館長 殿

〒150-0002

所在地 東京都渋谷区渋谷 2-12-15 日本薬学会ビル 7F
評価機関名 一般財団法人 児童健全育成推進財団
(東京都福祉サービス評価第三者評価機関/機構 12-215)
電話番号 03-3486-5141
代表者氏名 理事長 鈴木 一光



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

評価者氏名	評価者氏名		所属
	①	依田 秀任	児童健全育成推進財団 事務局長
	②	渡部 博昭	児童健全育成推進財団 第三者評価室主たる評価者 東京都評価者番号 H1201036
	③	島田 聖子	児童健全育成推進財団 第三者評価室 所属評価者
福祉サービス種別	児童館		
評価対象施設名称	京都市白川児童館		
施設連絡先	所在地	〒606-8414 京都府京都市左京区浄土寺真如町 155-2	
	電話番号	075-762-0014	
施設代表者氏名	館長 臼井 朗		
契約日	平成 28 年 6 月 2 日		
自己評価票回答期間	平成 28 年 10 月 6 日～平成 28 年 12 月 9 日		館長・事務局回答項目
職員調査票回答期間	平成 28 年 11 月 21 日～平成 28 年 12 月 5 日		職員回答項目
訪問調査日	平成 29 年 1 月 17 日		

京都市白川児童館評価結果

I. リーダーシップと意思決定

1 事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている		
1	事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している	
	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している	○
	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○
	3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○
2	経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○
	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○
【講評】		
法人として基本理念と児童館の重点目標を掲げ、その実現に向けた取り組みをおこなっています		
① 法人の基本理念は「京都市における社協行動指針2015」に明記しています。指針には児童館事業の「重点取組」を記載し、ホームページ、リーフレット、児童館の利用案内への記載などの方法で公表しています。利用者にも法人が目指す「基本目標」「重点目標」について理解が深まるようにしています。児童館ではその「重点取組」を基本として事業計画を作成しています。		
② 業務権限や責任所在に関する規程を定めています。また、全職員対象の研修を開催し、法人幹部が講師となり児童館の現状課題や方向性を伝えています。		
③ 同じ行政区の法人所管児童館の館長によるグループ制により、運営主体の意向や必要な事務連絡、各館の情報交換を円滑に図っています。		

Ⅱ. 経営における社会的責任

1 社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		
1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している		
1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などを明示している		○
2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理（個人の尊厳）などの理解が深まるように取り組んでいる		○
3. 事業所のコンプライアンスや社会的責任を明確にして、職員保護や法令遵守に対する取り組みをおこなっている		○
2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている		
1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		○
2. 透明性を高めるために、地域の人々の目にふれやすい方法（事業者便り・会報など）で地域社会に事業所に関する情報を開示している		○
2 地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		
1 事業所の機能や福祉の専門性を生かした 取り組みがある		
1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している（施設・備品等の開放、個別相談など）		○
2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性を生かした企画・啓発活動（研修会の開催、講師派遣など）を行っている		○
2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している		
1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		○
2. ボランティアの受け入れ体制を整備している（担当者の配置、手引き書の作成など）		○
3. 利用者や地域住民を対象としてボランティア育成をおこなっている		○
3 地域の関係機関との連携を図っている		
1. 地域の関係機関のネットワーク（連絡会など）に参画している		○
2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		○
3. 小学校等利用者が関係する機関との連携を図っている		○
【講評】 利用者や地域の関係者に情報開示をおこない、透明性の高い児童館の運営を心がけています ① 職員心得やサービス姿勢を「社協信条」に明示しています。「倫理」についての研修をおこなうなど「職場倫理」の維持・向上に努めています。また、「事業報告書」「情報公開規程」「第三者評価受審結果」等必要な情報開示をおこなっています。また、法人所管児童館共通で実施する「利用者共通アンケート」の結果を「児童館だより」等に掲載し公表しています。 ② 京都市地域子育て支援ステーション事業の「基幹ステーション」として、子育てに関わる関係機関・団体のネットワークの基点となっています。 ③ 「ボランティアの手引き」を独自に作成し、ボランティア担当を決めてその受け入れを進めています。		

Ⅲ. 利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

1 利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している		
1 利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）		
1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○
2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○
2 利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる		
1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○
2. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○
3 地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している		
1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる		○
2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる		○
【講評】 利用者の意見・要望を受けとめ、児童館活動としての利用者サービスの向上に努めています ① 「苦情解決のための実務マニュアル」「苦情解決規則」を整備しています。法人に第三者委員会を置くとともに、児童館には苦情申出窓口を設置し、利用者の意向を酌むことに努めています。 ② 「利用者共通アンケート」を実施して、利用者の意向を児童館の事業計画や運営改善に活かしています。 ③ 学童クラブでは、保護者懇談会や個人面談を実施して、個別的な要望や意向を把握しています。児童館と家庭の共通認識が図られるよう配慮しています。		

IV. 計画の策定と着実な実行

1 実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		
1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/>	
2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 短期の活動についても、計画的（担当者・スケジュールの設定など）に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/>	
2. 計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している	<input type="radio"/>	
3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	<input type="radio"/>	
2 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1 利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる		
1. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	<input type="radio"/>	
2. 事故、感染症、侵入、火災、自然災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	<input type="radio"/>	
3. 利用者の負傷等に対応する傷害保険に加入している	<input type="radio"/>	
4. 賠償すべき事故に対応する損害賠償保険に加入している	<input type="radio"/>	
【講評】 法人の理念に基づいて事業計画を策定し、計画的な運営をおこなっています ① 「社協行動指針 2015」を基準として、児童館活動の基本的な方向性として事業計画を策定しています。地域福祉やコミュニティづくりを意識した児童館運営をおこなっています。 ② 職員行動評価の基準を作り、業績目標の設定と達成度について個別の評価をおこなっています。 ③ 法人独自に「事故や災害における予防と対応マニュアル」「衛生管理のためのマニュアル」等各種危機管理のマニュアルを整備し、避難・消火訓練や「ヒヤリハット」の報告等、具体的な利用者の安全対策を講じています。		

V. 職員と組織の能力向上

1 事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		
1 事業所にとって必要な人材構成にしている		
1. 事業所の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している	<input type="radio"/>	
2. 採用に対する明確な基準を設けている	<input type="radio"/>	
2 職員の質の向上に取り組んでいる		
1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/>	
2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	<input type="radio"/>	
3. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/>	
2 職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		
1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		
1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/>	
2. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
2 職員のやる気向上に取り組んでいる		
1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている	<input type="radio"/>	
2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる	<input type="radio"/>	
【講評】 人事考課制度や職員ヒアリングを導入して、人材育成と組織力向上を図っています。		
① 法人独自の人事考課制度により、望ましい職員像や行動基準に明らかにしています。 ② すべての職員に「報・連・相」を徹底するよう心がけています。 ③ 職員一人ひとりの研修受講状況を管理し資質向上を図っています。研修終了後はレポートの提出が義務付けられており、伝達研修により研修内容の全体化と定着化を図っています。		

VI. サービス提供のプロセス

1 サービス情報の提供		
1 利用者や地域住民に対してサービスの情報を提供している		
1. 利用者や地域住民が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		○
2. 利用者や地域住民の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		○
3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		○
4. 放課後児童クラブの利用が困難な場合には、理由を説明したうえで、他の相談先紹介など支援の必要に応じた対応をしている		非該当
5. 事業所の利用促進につながるように創意ある広報活動がおこなわれている		○
【講評】 児童館の情報を多くの方に届けようとする努力や工夫があります。		
① 「児童館だより」は利用対象（一般来館、学童クラブ、乳幼児）によって分け、情報を整理して提供しています。近隣の小学校全校児童への配布、中学校での掲示、地区社会福祉協議会を通して乳幼児の家庭への配布もおこなわれています。		
② 年に2回、近くの公園でおこなう出前児童館でも児童館の広報をおこなっています。まだ児童館に来館したことがない児童や親子が児童館活動の一端に触れたり、地域の方に周知を図る意味からも、更に回数を増やす努力が期待されます。		
③ 新たな利用者を確保していくことや、児童館を必要としている方へ届けるためにも、児童館だよりや行事等のチラシだけではなく、ホームページを積極的に活用するなど、媒体と広報拡大の工夫が期待されます。		
2 サービスの実施		
1 遊びの環境整備を行っている		
1. 遊ぶ際に守るべき事項（きまり）が、利用者に理解できるように決められている		○
2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある		○
3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している		○
4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている		○
【講評】 利用ルールなどを検討する体制があります。		
① 子どもの安全への配慮のために、日によって遊びの種類を制限するなどのルールを作っています。子どもたちが関わり合いながら、互いのやりたいことと安全を自ら守れる工夫を学べるような体験への支援も考えたいところです。		
② ルールや遊びの内容については、館内掲示をおこなって伝える努力をしています。掲示物が多く、情報が未整理な点も見受けられたため、変更点や配慮事項が子どもたちにわかりやすく伝わるような仕掛けを検討することが期待されます。		
③ 地域団体が管理している部屋について、空き日に借りられる努力をしています。今後、地域団体との交流を深めるとともに、児童館の運営状況について理解を求め、より良い使用方法を検討していくことが望まれます。		
2 乳幼児と保護者への対応を行っている		
1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している		○
2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている		○
3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している		○

	<p>【講評】 様々なかたちの乳幼児の居場所の取り組みを用意し、参加の機会を増やしています</p> <p>① 対象年齢別（乳児、幼児）の登録制クラブ活動や自由参加のあそびのひろば、月1回公園に出かけて実施する「きらきらひろば」などを開催しています。</p> <p>② 民生委員による子育てサロン、保育所による0歳児広場を毎月1回おこない、他機関との連携による親子の居場所づくりに努めています。今後保育所の民間委託に伴って児童館が引き継ぐという事でさらなる充実が期待されます。</p> <p>③ 学校休業時の年齢の高い子どもとの住みわけのため、地域との交流を深め地域活動の部屋を活用することも期待されます。</p>	
	3 小学生への対応を行っている（核となる児童館活動）	
	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	○
	2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	○
	3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	○
	4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	○
	<p>【講評】 子どもの体験を増やす工夫をしています。</p> <p>① 登録制の切り絵クラブ・将棋クラブや、子どもがやりたいことができる「わくわくクラブ」の取り組みをして、学童クラブ登録児童と自由来館児童と一緒に遊ぶ機会をつくりだしています。</p> <p>② 放課後児童クラブの利用人数の方が多いのですが、遊びの場面では一般来館の子どもとのわけ隔てのない対応になるように配慮しています。</p>	
	4 中学生・高校生世代への対応を行っている	
	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	—
	2. 中学生・高校生世代が自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	○
	<p>【講評】 中学生・高校生世代を呼び込むための工夫をしています。</p> <p>① 学校の帰りに立ち寄る中学生がいますが、利用人数はそれほど多くありません。日常的な居場所となるような取り組みが期待されています。</p> <p>② 利用促進のために、中学校におたよりを掲示しています。また、学童クラブとの交流を組み合わせておこなっている中学校の生徒を、まつり行事の実行委員に誘うなどの努力をしています。今後は、中学生・高校生世代の児童にとって魅力のある事業や、居心地の良い日常の居場所を提供する観点で検討することが期待されます。</p>	
	5 子どもの権利を尊重した支援を行っている	
	1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	○
	2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	○

	<p>【講評】</p> <p>子どもが主体的に参加する取り組みがあります。</p> <p>① 小学生を対象とした「わくわくクラブ」では、子どもたち自身で活動内容を検討し、それを実現させています。2, 3年生が中心ですが、今後、高学年に広げることが期待されます。</p> <p>② 高学年の実行委員会活動について取り組み中です。現在は3年生が中心で4年生が助言者ですが、今後の高学年の活躍につなげていける活動です。また、活動が中・高校生世代の利用へと繋げられるように支援のあり方を検討することも期待されます。</p> <p>③ 遊び方御ルールなどを決める時は子どもたちによる話し合いを支援し、文章で残すようにしています。</p>						
6	<p>配慮を要する児童・家庭への支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>保護者や小学校との情報の共有を重視して、子どもの支援にあたっています。</p> <p>① 保護者との関わりを大切に、連絡帳、個人面談以外でも常に連携できるよう努力しています。</p> <p>② 月1回の職員会議のほか、必要な時には朝・昼・終業時などのミーティングの時間を使って、情報共有をしています。</p> <p>③ 小学校への迎えの際に育成学級の担当教員と話をしたり、機会をとらえて館長が学校へ出向き、保健室の養護教諭や教頭先生と情報交換をするようにしています。</p>	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○	2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	○	3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○
1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	○						
2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	○						
3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○						
7	<p>地域の児童の育成環境づくりを行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある</td><td>○</td></tr> </table> <p>【講評】</p> <p>子どもの育成環境を整えるための努力をしています。</p> <p>① 昨年度より、第三錦林小学校区「地域子育て支援ステーション事業」の基幹ステーションを受託し、保育園・学区社会福祉協議会・民生委員会・学童クラブ保護者会と共に、子ども支援のためのネットワークを作っています。保育所・幼稚園・小学校・子ども支援センターと年4回、それぞれの取り組みについて情報交換しています。</p> <p>② 地元警察署の協力により、乳幼児親子・学童クラブの交通安全教室を実施して、利用者の交通安全意識の醸成に役立てています。自由来館の子どもや興味のある地域の方にも参加の機会ができるように検討することも考えられます。</p>	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○	2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	○	3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○
1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	○						
2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	○						
3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	○						

3 サービスの開始・終了時の対応【放課後児童クラブ併設の場合のみ該当】							
1	<p>サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている</td><td>○</td></tr> <tr> <td>3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している</td><td>○</td></tr> </table>	1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○	2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○	3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○
1. 放課後児童クラブ利用の開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○						
2. 放課後児童クラブの内容について、保護者の同意を得るようにしている	○						
3. 放課後児童クラブに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○						
2	<p>サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている</p> <table border="1"> <tr> <td>1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している</td><td>○</td></tr> <tr> <td>2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支</td><td>○</td></tr> </table>	1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○	2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支	○		
1. 放課後児童クラブ利用開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○						
2. 放課後児童クラブ利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支	○						

援を行っている	
3. 放課後児童クラブ利用の終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援をおこなっている	○
【講評】 安心して、学童クラブを利用できるような配慮をおこなっています。 ① 就学児検診時は児童館・学童クラブについて説明する時間を設定してもらっています。 ② 個人面談や懇談会の他、日常的な声掛けに気を配ったり、館長が相談に乗るなど保護者の安心につながる努力をしています。	

4 特に配慮を要する児童・家庭の個別状況に応じた計画策定・記録	
1 定められた手順に従って情報収集、分析および課題設定を行い、子ども・家庭の課題を理解した個別の支援を計画している	
1. 配慮を要する子どもや保護者の心身状況や生活状況、ニーズ等を、明示する手続きを定め、記録し把握している	○
2. 支援の計画は定期的見直しの時期と手順を定めている	○
3. 個別の支援内容は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して計画的に作成されている	○
4. 計画を保護者にわかりやすく説明している	○
5. 配慮を要する子ども・家庭の支援について、関係機関との連携を図っている	○
6. 配慮を要する子ども・家庭の支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○
2 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している	
1. 配慮を要する子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしくみがある	○
2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○
3 配慮を要する子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している	
1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	○
2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○
【講評】 書類管理のシステム化を検討することが期待されます ① 「児童の状況報告書」の内容を毎年度検討し、更新することで、配慮を要する児童の支援計画の策定、見直しに代えています。この際、保護者や学校と連携し、子どもや家庭の状況を確認しながら作成しています。 ② 日常の児童の様子は日誌に記録しています。特に配慮を要する児童に関しては、個別の記録ノートに記録して職員間の情報共有に努めています。 ③ 今後は、個人別のファイリングなど、書類管理のシステム化を検討して、情報を活用しやすくし、支援計画の策定や他機関との打ち合わせなどの際に生かせるようにすることが望まれます。	

5 プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	
1 子どものプライバシー保護を徹底している	
1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	○
2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	○
2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している	
1. 日常活動の中で子ども一人ひとりを尊重している	○
2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	○
3. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのない	○

よう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	
4. 子どもの権利擁護のための規定が定められ、公表されている	○
【講評】 職員の倫理観を高める努力があります。 ① 法人独自の倫理チェックシートを活用し、3か月に一度個々人で振り返るようにしています。 ② 子どものプライバシー保護には、十分注意しています。例えば、写真は個人の特定制がでないような物を使用したり、絵画等の掲出の際には、その都度、対象保護者に電話連絡をして、許可を得てから使用するなどしています。また、学童クラブでは入会前に同意を得るようにしています。	

6 事業所業務の標準化	
1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている	
1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○
2. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○
2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている	
1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○
2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○
3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○
3 さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している	
1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○
2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○
3. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○
4. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○
【講評】 児童館職員の業務内容を標準化するためにコミュニケーションを大事にしています。 ① 「京都市児童館活動指針」に基づいて児童館活動をおこなっています。 ② 人事考課制度を活用し、職員一人ひとりの職務評価をおこなっています。 ③ 人事異動があっても誰もが実施できるように、行事ごとのマニュアルを作っています。今後は児童館の運営全般について業務の効率化・標準化を図るためにマニュアルを作ろうとしています。	

VII. 情報の保護・共有

1 情報の保護・共有に取り組んでいる	
1 事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる	
1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○
2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している	○
2 個人情報、個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している	

	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○
	2. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	○
	<p>【講評】</p> <p>個人情報等の重要な情報は、規程を整備して適切に保持・管理しています</p> <p>① コンピュータにはアクセス権限をかけ、万全に情報管理しています。</p> <p>② 必要な情報は職員が共有する仕組みを整え、個人情報のデータはサーバーで整理・保管しています。</p> <p>③ 「個人情報保護規程」「個人情報保護規程に関する事務取扱要領」を整備し、個人情報を適切に管理するとともに、準職員、実習生、ボランティアにも守秘義務を徹底しています。</p>	

総評

■特に良い点

ポイント1	独自の人事考課制度により人材育成と組織力の向上の具体的な手立てを持っています
	キャリア別の職務課題、行動に対する評価が明らかになる独自の人事考課制度は、児童館職員に求められる像を明らかにして。職員のモチベーションの維持・向上につながっていると思われます。 また、児童館長と児童厚生員の定期的なコミュニケーション機会にもなっています。
ポイント2	子どもを迎え入れる暖かな雰囲気をつくる努力がみられます
	玄関正面に絵本やおもちゃをレイアウトしたり、子どもたちが書いた館長の似顔絵を飾ったりと、子どもを迎え入れる暖かな雰囲気が演出されていました。来館時の受け入れてもらっているという感覚は、見過ごされがちですがとても重要です。職員の姿勢が表れていると感じました。さらに工夫され、子ども、保護者、地域の方、来館した誰もがほっとできる空間・環境づくりがされることを期待します。
ポイント3	子どもがのびのびと活動できるようにクラブ活動や継続的な活動を工夫しています。
	学童クラブで何年にもわたる活動に取り組んだり、やりたい内容を子どもたちが話し合って決める、わくわくクラブの活動などをおこなって、子どもたちの自発性を取り入れる機会にしています。今後は、高学年にとっても魅力のある活動に広げていくことが期待されます。

■改善が望まれる点

ポイント1	記録の管理について、工夫が必要です
	日誌に出来事を書き込む、学童クラブでの個別懇談や特別な対応があった時の日誌記入などを徹底しており、職員が情報を共有できるようになっています。しかし、子どもの個人別に整理されていないため、たくさんの資料に目を通す必要があり、支援計画を検討したり他機関と連携を図る上では、個人別に整理するなどの管理方法の工夫をすることが望まれます。
ポイント2	地域のすべての児童の利用を目指すための工夫が必要です
	高学年の来館が5～6人と少なく、中学生以上についても限られています。年齢の高い子どもは、自らがやりたいことの実現に支援があると感じるのが、来館の第一歩となります。実際には様々な制約があり、児童館では希望通りの活動はできない事がほとんどかもしれません。しかし主体的に活動できたという実感があれば、当初の望みと違って満足感も得られ、成長も見込めます。積極的に取り組みを創り出すことが望まれます。